

郷土を知り、郷土を愛する

志木市 歴史をんぼ

— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 —

第69回 志木の伝説③

カッパを相撲で負かした話

引又河岸の老練な船頭はカッパの本性を知っていたから、カッパが相撲をせびっても、相手にしませんでした。まだ若いカッパは、老練な船頭の恐さを知らないため、相撲の相手をされないと、口からでまかせに悪態を言うのです。

老練の船頭でも、コワッパから悪口を面と向かって言われると、本気で腹を立てることもあり、この時も堪忍袋の緒を切らした船頭は「こらっ、カッパめ、よくもこけにしゃあがったな、勘弁ならん」というや舟から飛び降り川原の水辺から離れた土手下に誘い「さあ来い」とかまえると、カッパは腹の中で「大物だぞ、しめしめ」と舌なめずりして「行くぞ」

と小さな身体をぶつけていきました。船頭は、抱きつかせてはうるさいと太い腕の大きな手で、のどわめがけて突き飛ばし、またかかって来る所を力まかせに横つらを右左と続けざまにはり飛ばし突き飛ばします。カッパはいくらふっ飛ばされても抱きつきに来ます。大きな手のひらで、横つらをはたき、のどわを突き上げている船頭は、カッパの頭の皿の水が干し上がるのを待っているのです。かっかと太陽が照り付ける河原で、大男で頑丈な船頭から散々はたかれ突き飛ばされては、小さなカッパの頭はふらふら、頭の皿の水もかれたのか、眼はかすみ脚はふらつき青い顔になって、それでも抱きつきにいくのです。船頭は「負けたと謝らんか」と突き飛ばしはたき続け、さらに小さい身体を頭上高く差し上げ、力いっぱい地べたにたたきつけました。さすがのカッパも「あんたには負けた」と言いました。船頭は、カッパを相手に大人げないとは思いながら、腹の虫も納まり「思い知ったか、カッパめ」と去っていきました。それから何時間か過ぎ、息を吹き返したカッパは、やっこのことで四つんばいにはって水辺までたどりつき水中に消えていきました。

カッパ仲間では、大船頭と坊主には関わるなど言われたといいます。



▲（発行：志木市教育委員会）
「志木の伝説」より



志木っ子の笑顔のために

志木市の子育て支援の一翼を担う施設として、発達が気になる子どもの相談を行う児童発達相談センター「すきっぶ」。平成27年の開設から10周年を迎えました。

10年の節目、気持ちも新たに、子どもたちの健やかな成長とご家族の安心を支える大切な拠点として、一層のサービス向上に取り組んでいきます。子どもの成長について、少しでも心配なことがあれば、お気軽に志木市総合福祉センター内「すきっぶ」にお問い合わせください。

近年、子どもの発達に関する支援の重要性が高まる中、志木市では、本年4月から就学前の段階で発達の特徴に気づき、子どもに合った学びの環境につなげるための「5歳児健診」がスタートしました。5歳児になると、ことばの理解力が高まり、周囲との接触も増え、コミュニケーション範囲も広まることから、健診では発達上の特性を早期に発見するために集団での行動観察や個別の問診を行います。

支援の必要性が高いと認められた場合には、「すきっ

ぶ」において親子で参加する個別相談や、保護者を対象とした講座を通じて、子どもの特性をしっかりと把握し、保護者も子どもとの向き合い方を学ぶことで、よりよい教育環境の選択につなげていきます。

また、志木市では妊娠期から就学までの切れ目のない子育て支援にも力を入れています。妊娠中から保育園を見学することで、保育園を身近に感じながら、出産後の子育てのイメージをもつことができる「みつけようお気に入り保育園」や、育児ストレスや子育てにお悩みのご家庭の子どもを、週に1回継続的に保育園などでお預かりする「すくすくしきっ子事業」など、子育てしやすい環境を整えています。

さらに、4月からは幸町地区の志木なかもり幼稚園内に子育て支援センター「ほっかぼかルーム」がオープンしました。子どもたちと保護者の皆様が、気軽に集える場所として、ぜひご利用ください。

また、北美保育園については令和10年度のリニューアルオープンを目標に建替えを進め、医療的ケアが必要な子どもの対応や病児保育、こども誰でも通園制度など、多様な保育ニーズにきめ細かく対応し、安心して子育てができる環境をさらに充実していきます。

志木っ子たちの笑顔から私もたくさんの元気をもらっています。発達段階やご家庭の状況に応じて必要な支援がしっかりと届くよう、子どもとご家庭に寄り添い続ける体制を整えることで、志木市は安心して子育てができる「子育て世代が住みやすいまち」として、前進していきます。